

第 268 回研究報告会（2 月 10 日）

「清末提督学政赴任記考（その 1） 嚴修『蟬香館使黔日記』を通して」

標記題目で、国際学部の朱鵬先生から報告があった。嚴修（範孫・1860～1929）は、天津の人。科挙の改革に「経済特科」を提案、袁世凱の幕僚として天津の近代教育を振興、学部侍郎として全国の教育行政に携わった。彼に関わる資料の紹介のあと、『蟬香館使黔日記』は、日清戦争勃発の光緒 20 年、科挙試験廃止直前における貴州省の科挙、学校の実情を詳細に記録している点において興味深く、特に提督学政の日常を記録したもののとしても貴重であり、清末の有名な日記として注目されたとした上で、清末社会の様子をリアルに再現した日記の一部が紹介された。

（堀内記）

初の「出前教学講座」を沖縄教区で開催

佐藤孝則

3 月 2 日、おやさと研究所は初めての「出前教学講座」を、沖縄教区（会場：天理教那覇分教会）で開講した。おやさと研究所は、道友社 6 階を会場に毎年「公開教学講座」を開講している。その際のアンケートで、しばしば「おぢば以外で講座を開催してほしい」との要望があった。これを受けて検討を重ねていたところ、沖縄教区の担当者から、沖縄での開催の打診があり、今回の開講となった。

この「出前教学講座」は今後 5 年間、毎年 3 月と 9 月の 2 回開講することとなり、3 月は「原典に学ぶ」シリーズ、9 月は「実践」シリーズとして合計 10 回の講座を予定している。初回の「原典に学ぶ」では、深谷忠一所長が講師を務め、「おさしづ」について 90 分間講義した。教会長やようぼく 40 名ほどが熱心に聞き入り、質疑応答も予定時間を超過するほどだった。



講義をする深谷所長

（9 頁からの続き）

にとっては、頑固な抵抗を放棄し、良識を選ぶ時である。

問 世論調査はキリスト教徒にとって基本的には何を意味するのか？

答 教会内部の改革は大変重要な動きである。改革の動きは「私たちは教会」であるという気持ちである。

問 この 10 年、あなたは教会改革を唱えていたが、この世論調査の結果は、あなたの勝利と思うか？

答 別に勝利とは思ってはいない。この結果は、第二ヴァチカン公会議以降の動きとして明白なことである。教会の中に未だ改革しようとする力があることを嬉しく思う。

問 法王は、この世論調査の結果を引っさげて前に進めるか？

答 私の慎ましやかな意見を申すならば、法王は今進んでいる道を、さらに前に進んで欲しい。結果を恐れる必要はない。

法王自ら洗礼を受ける

現法王は 1 月 12 日、システイーナ礼拝堂で 32 名の新生児に洗礼を受けた。礼拝堂内は、新生児たちの泣き声で、大変な騒ぎとなった。それを察した法王は、その一団の泣き続ける姿を見て、若いママたちを呼び寄せて、乳児を満足させるために、お腹が空いていることだろうから、ミルクとか何か簡単にたべられるものをあげたらどうかと語りかけた。特筆すべきことは今までになかったことであるが、教会で結婚式をあげなかった夫妻の子供が、ここで洗礼を受けたことだ。

法王にとってはこのようなことは初めてではない。法王になる以前、一枢機卿の時代に、未婚の母の子供などにも洗礼をさずけている。

法王が子供の法王を抱く

2 月 26 日、3 万人以上の人を集めて、サン・ピエトロ広場で一般謁見が行われた。カーニバルの期間だったので、多くの子供たちが仮装して、親に連れられて来ていた。子供たちはいろいろな格好をしていたが、その中にローマ法王と全く同じ格好をした子がいた。法王はその子を抱き上げ、車に乗せ、一緒に広場を回った。子供を抱き上げ、接吻等していたがそのうちに子供が泣き出してしまっていて、法王もどうしたら良いのかわらなくなってしまった。

「開講 20 周年記念・公開教学講座」のお知らせ

来年度（平成 26 年度）の公開教学講座は、9 月から開講を予定しています。

詳細は本誌次号以降で改めてご案内致しますが、今回は開講 20 周年を記念して講演会と教学講座に分けて実施する予定です。

グローバル天理
第 15 巻 第 4 号（通巻 172 号）

2014（平成 26）年 4 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 深谷忠一
編集発行 天理大学 おやさと研究所
〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan